

SPI Japan 2022 発表資料



プロジェクト成功に向けた提案品質の確保

2022年10月6日

株式会社日立ソリューションズ
技術革新本部 イノベーションデザイン技術部
青木 直子

はじめに

- **日立ソリューションズで見積提案活動の品質向上をミッションとした業務に従事しています。**
- **業務での課題、改善の取り組みをご紹介します。**

•本資料に記載されている会社名、製品名は、それぞれの各社の商号、商標もしくは登録商標です。

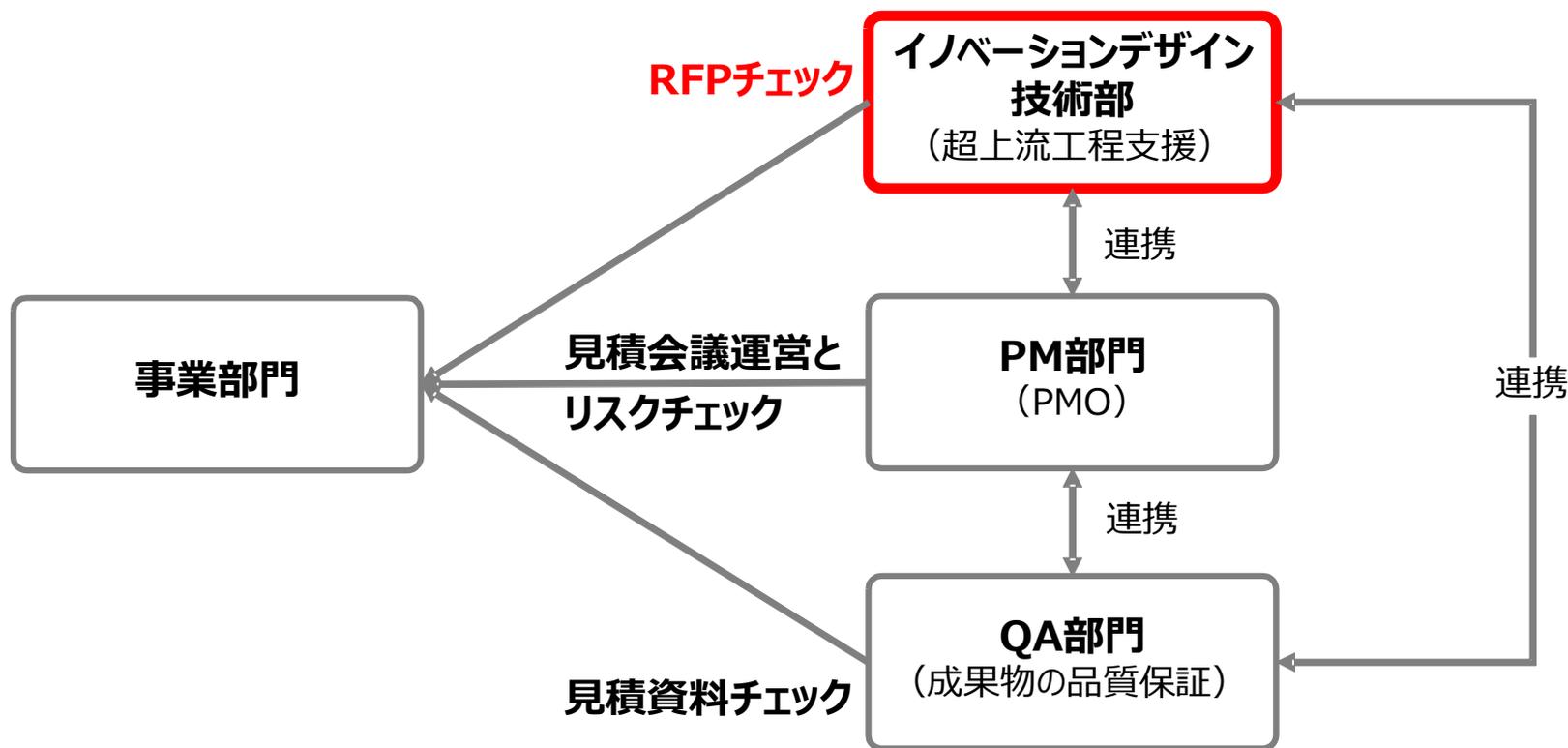
- **業務経験** : インフラ構築・稼働支援→開発→人財育成→要求品質確認
- 2013年～ 超上流推進部門で超上流人財育成施策に従事
- 2015年～ 同部門で要求品質確認施策に従事

技術革新本部 イノベーションデザイン技術部

- 上流から運用までの生産技術（開発基盤・プロセス・人財・ノウハウ）
- アイデア・事業創生の実現：デザイン思考、アイデア協創、リーンスタートアップ、UXデザイン、超上流プロセス

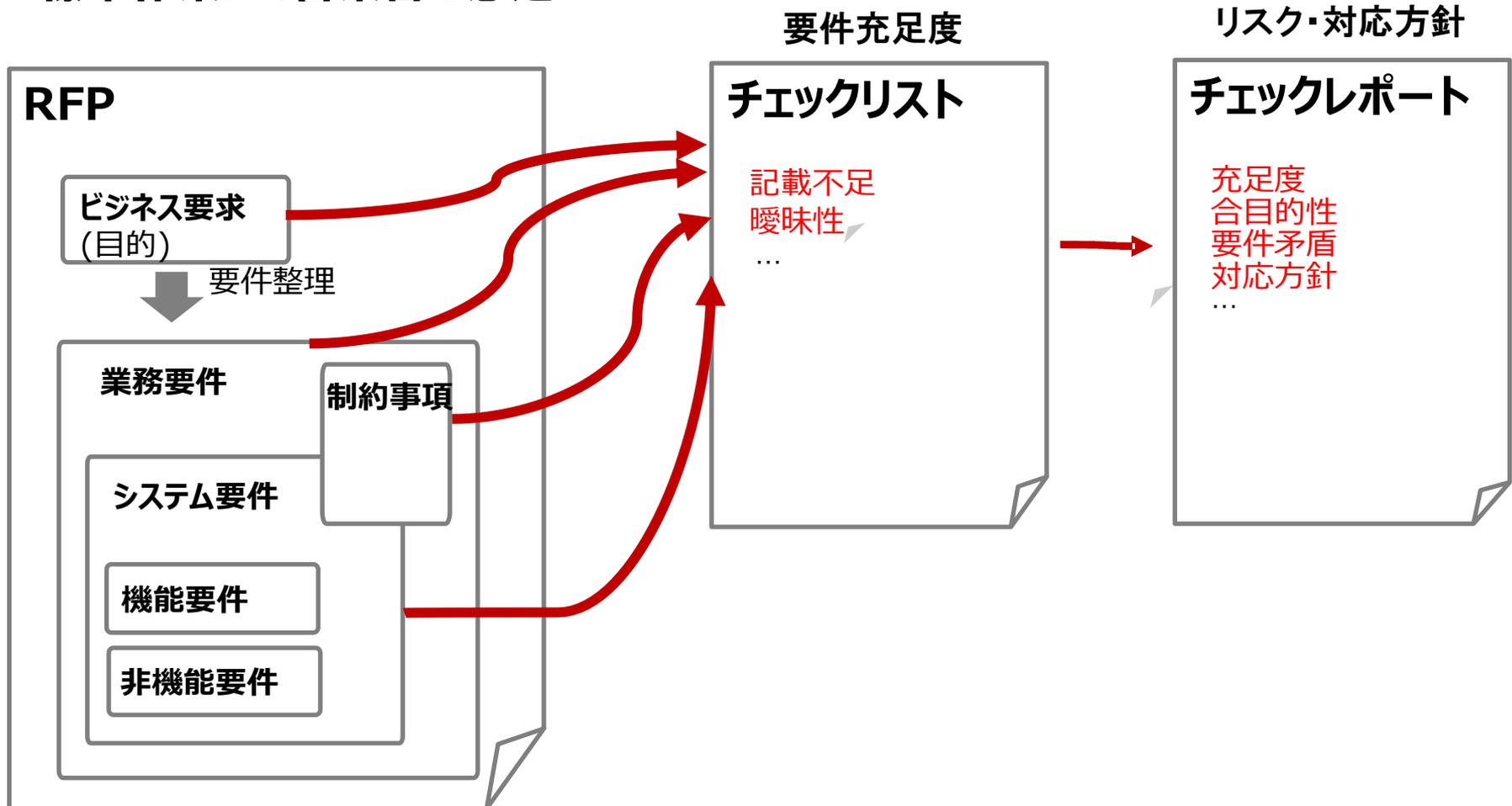
2. 提案・見積に関する全社施策

- ・当社では、大口不採算防止・見積時リスク低減を目的として大型案件の提案・見積作業のプロセスを運用
- ・イノベーションデザイン技術部では、規模が大きい案件を対象として顧客要求資料 (RFP) に対する品質チェック (**RFPチェック**) を実施



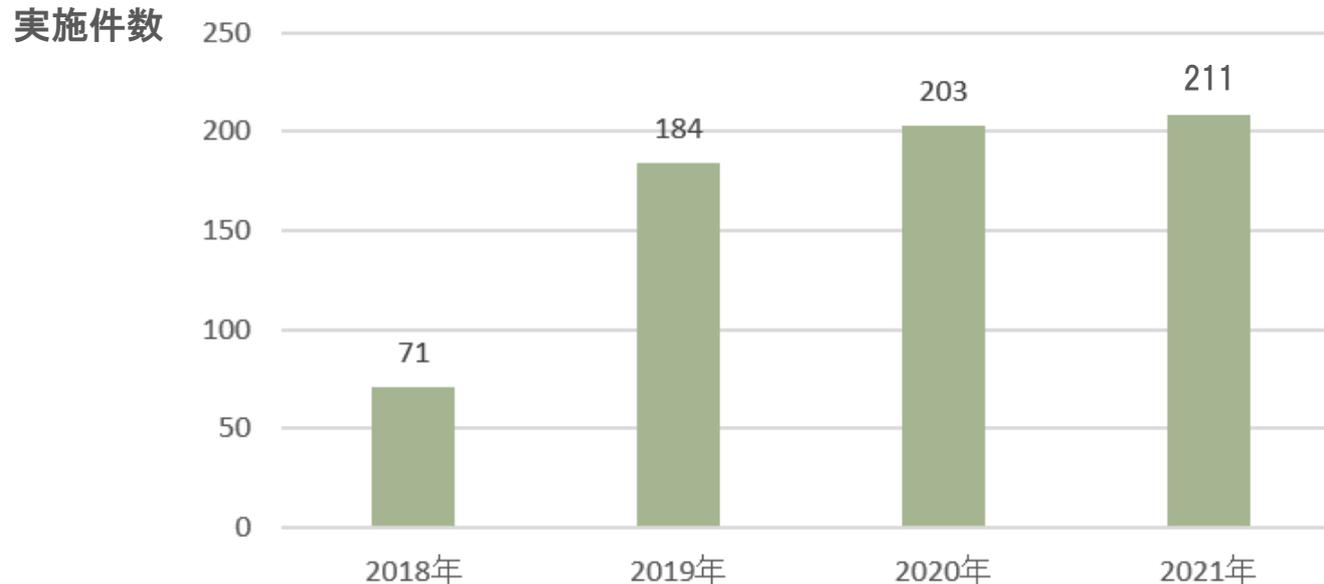
3. RFPチェック概要

- 要件を構造化し、**要件充足度** (要件の記載不足/曖昧性)を確認
- 事業部門の要望により、**リスク・対応方針**を含めて提言
- 標準作業に4営業日を想定



4. RFPチェック適用実績

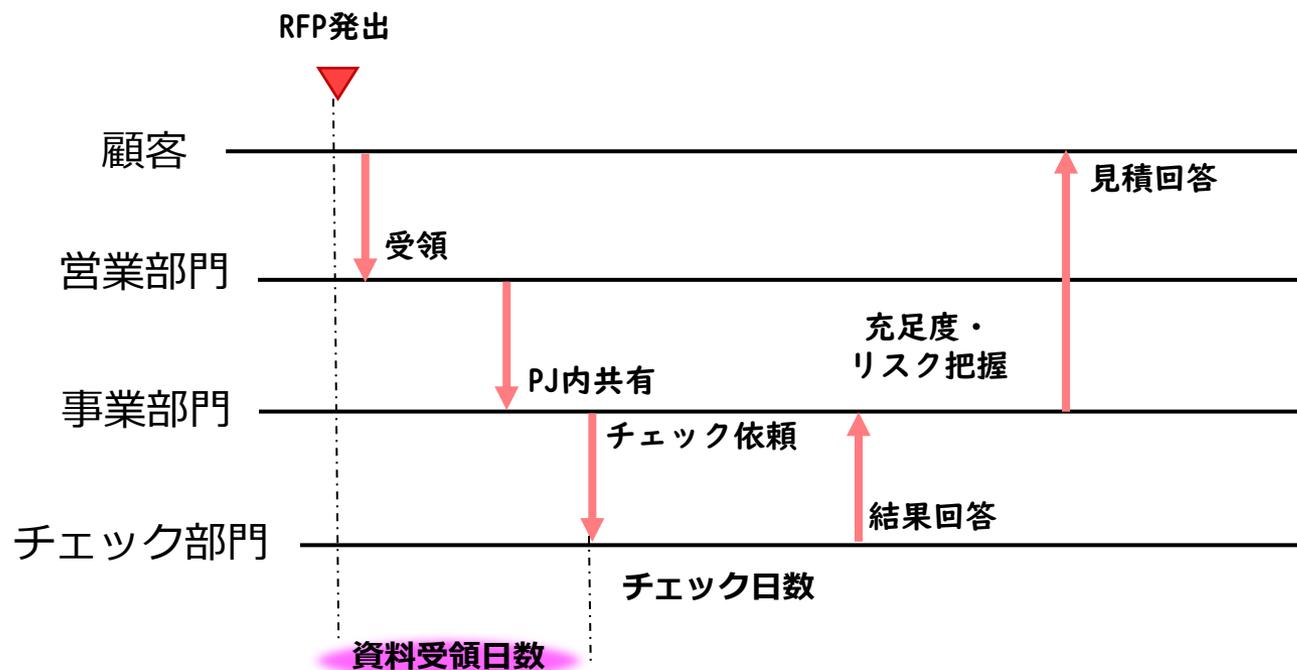
- 2018年適用開始ののち順次対象部門を拡大、2021年度から全事業部門で適用
- チェック依頼件数は年々増加、2021年度は年間211件実施



RFPチェック年間実施件数の推移

5. RFPチェックの主要な流れ

- 顧客からRFPが発出
- 営業部門が受領
- 事業部門がプロジェクト内で共有し、RFPチェック依頼を出す
- チェック部門が依頼を受け取り、RFPチェックに着手



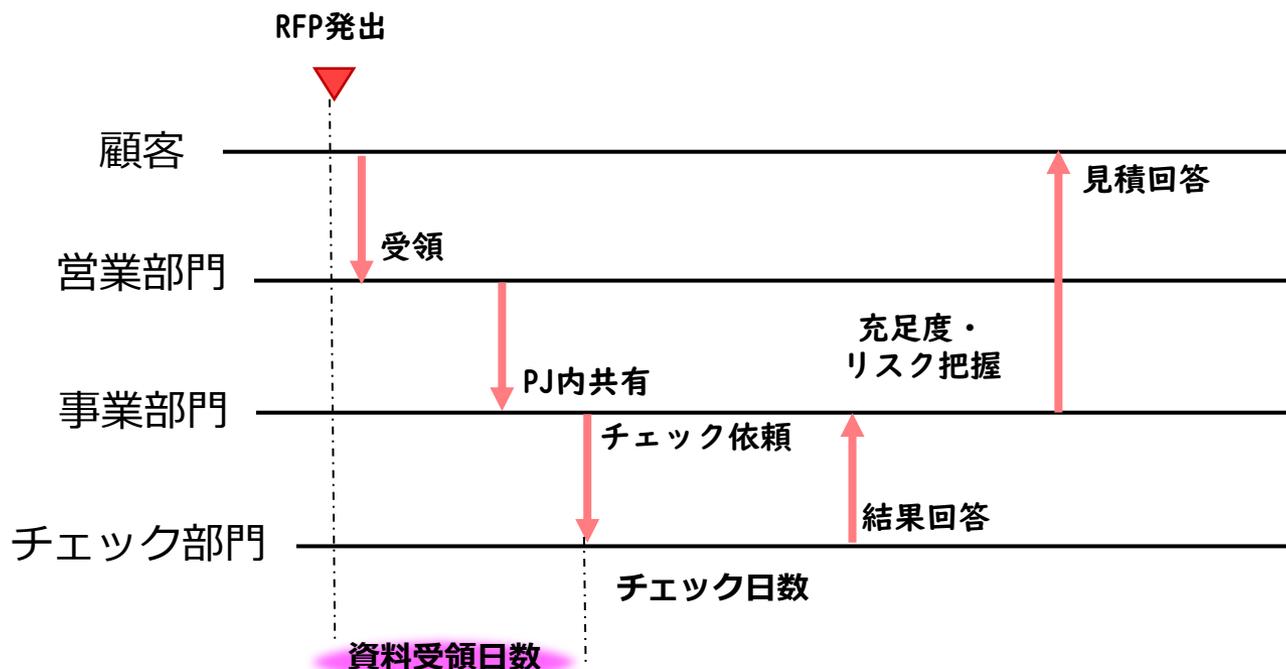
6. 課題認識と対応方針①

課題① RFPの入手が遅くなる

- 事業部門で提案可否の検討状況により
チェック依頼が遅くなるケースがある
- 営業部門からはRFPを受け取っていない



周知や運用基準の改定により
RFPを速く受け取る



7. 課題①に対して実施した改善策

- ・イントラサイトの解説ページにRFPチェック実施を明記
- ・営業がPM部門宛てに送る会議開催依頼メールにチェック部門をCc
- ・営業部長が参加する連絡会でRFPチェックを紹介
- ・全社向けRFPチェック説明会を実施
- ・事業部門の企画部署に対して早期依頼の徹底を申し入れ



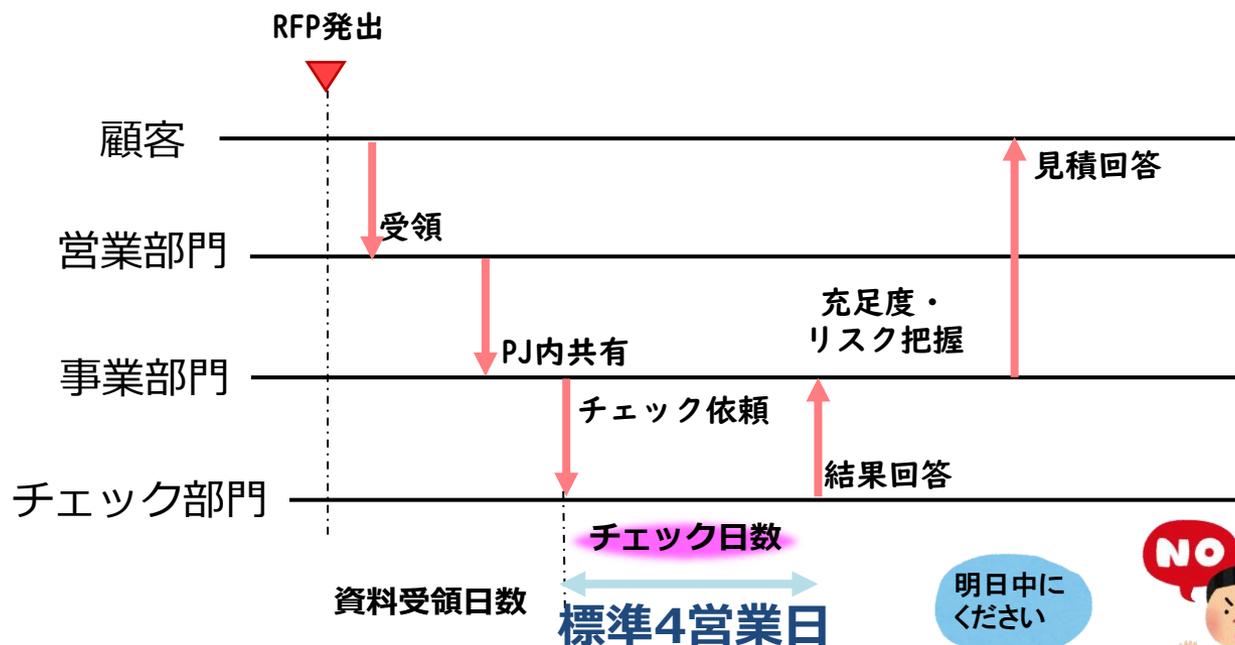
- ・営業部門が会議開催を依頼するタイミングでRFPチェックを認識
- ・RFPを早期に入手するためRFPチェックの運用基準を改定

8. 課題認識と対応方針②

課題② 早期回答のニーズに対応できていない

- 事業部門から見積回答に反映させるために早期回答のニーズがあった
- 納期が4営業日未満のチェック依頼は断っていた

チェック作業を見直し
早期回答の依頼に対応



明日中に
ください

NO

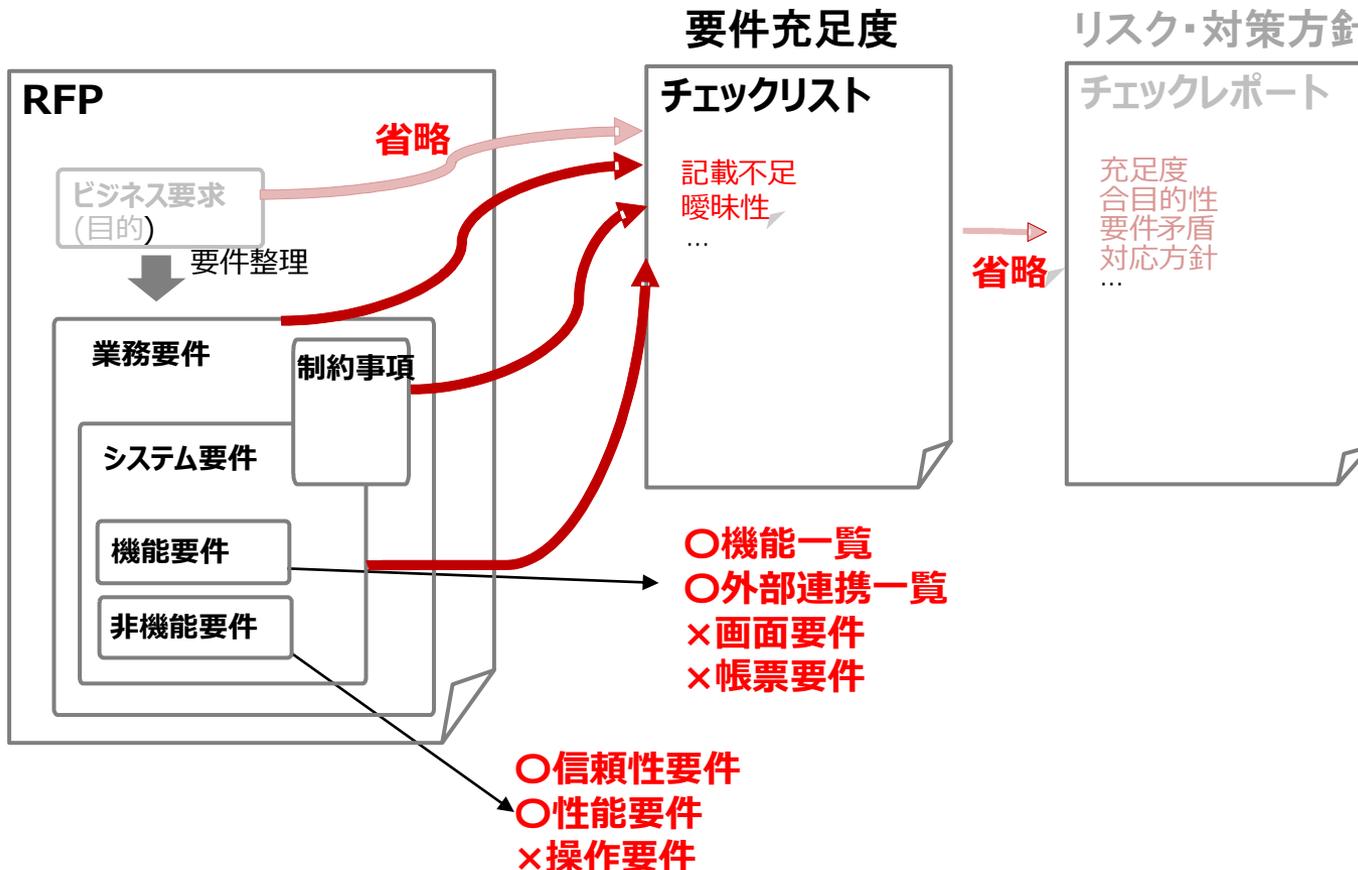


9. 課題②に対する対応方針、改善策

- 要件充足度を見積への影響が大きい項目に絞り確認
- 早期回答を優先し、チェックレポートは省略
- 省略した項目は後追いチェックし、品質を確保



RFP速報チェック



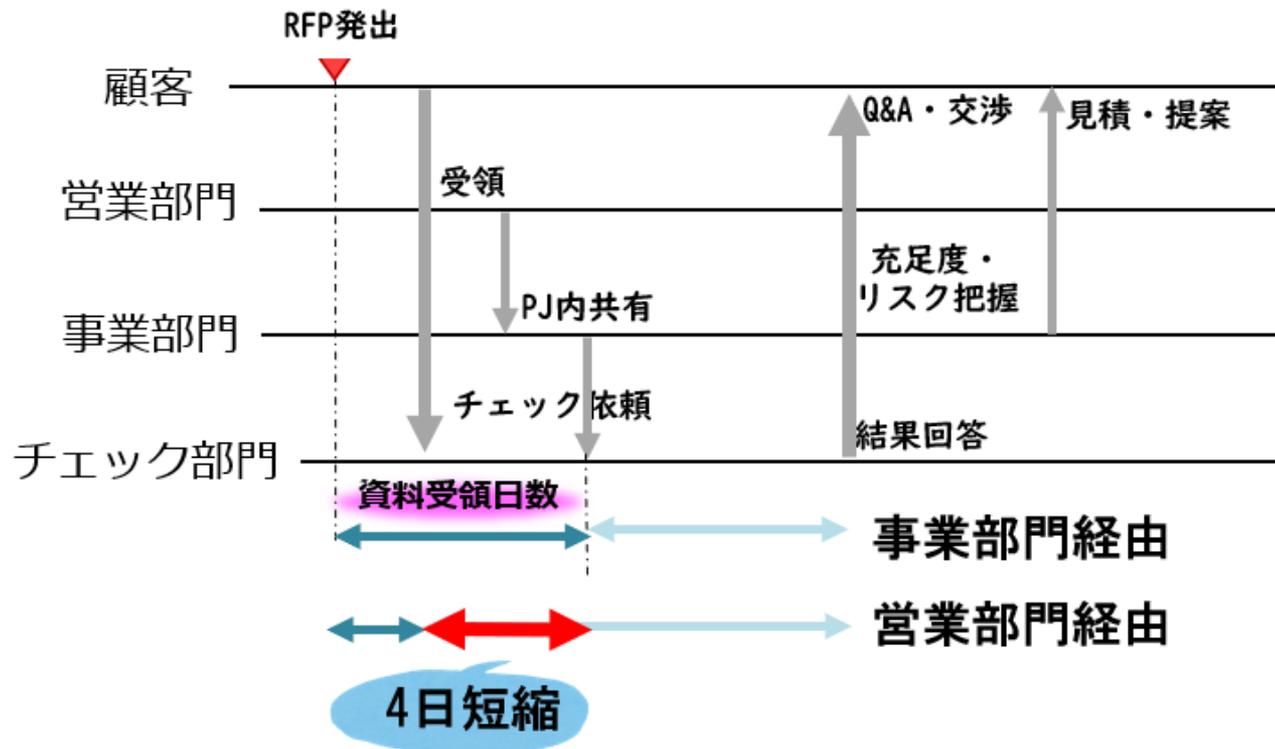
10. 改善活動の結果①周知による資料受領日数の短縮 HITACHI Inspire the Next

営業部門経由で
直接RFPをシェア



平均4日早くRFPを受領

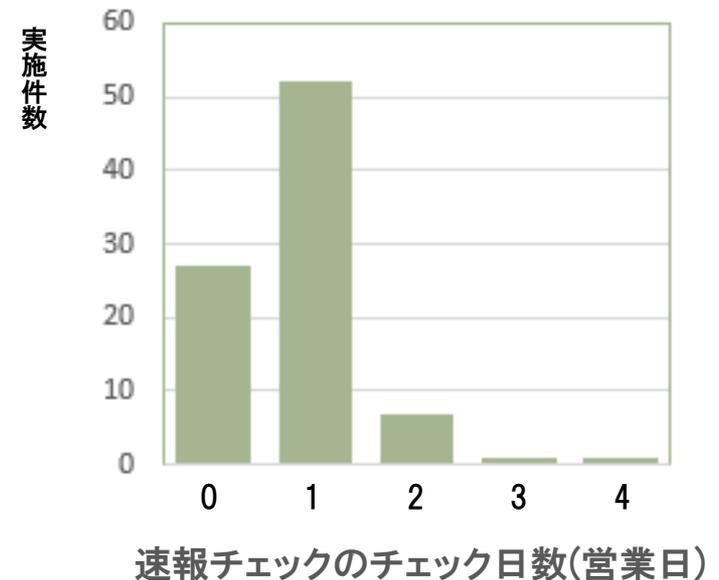
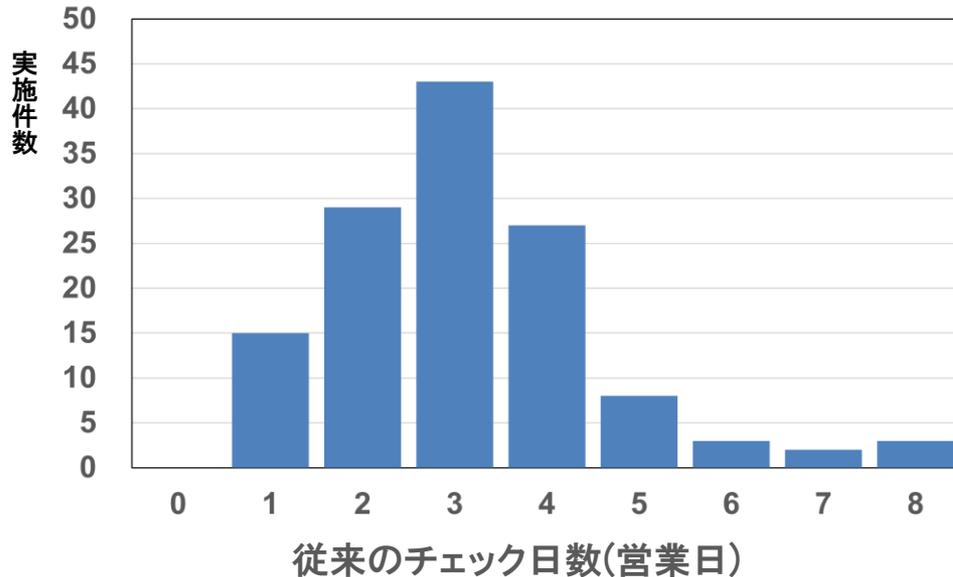
運用基準改定の効果



速報チェックの実施

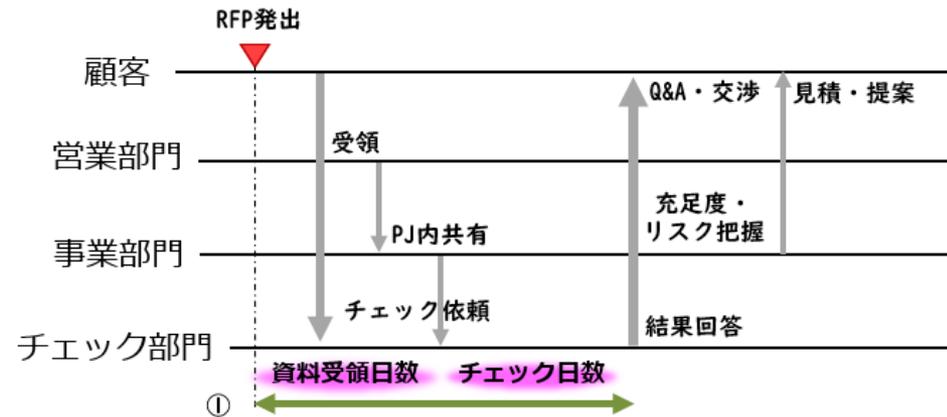


- ・依頼の8割は翌営業日中に回答
- ・早期対応の依頼への対応



12. 改善活動の結果

- 資料受領日数+チェック日数は徐々に短縮
- RFP発出から平均2週間以内で充足度・リスクを事業部門に提示



営業への周知を開始

チェック部門 : RFPの早期共有
⇒余裕をもった・確実な依頼対応

事業部門 : 速報チェックを活用した見積検討

営業部門 : チェック結果を活用した顧客とのQ&A対応

- チェック自動化による作業省力化
- 事業部門のセルフチェック力強化

END



プロジェクト成功に向けた提案品質の確保

2022年10月6日

株式会社日立ソリューションズ
技術革新本部 イノベーションデザイン技術部
青木 直子